

## 1. 単元構想

<p><b>単元名</b></p>	<p>「地域を知ろう！」南風原町が住み続けられる町であるために必要なことは何か？</p>		
<p><b>単元の目標</b></p>	<p>自分たちが住む地域のまちづくりやそれに携わる人々について調べる活動を通して、</p> <p>(1) 地域の特徴やまちづくりに携わる人々の思いに気付き、</p> <p>(2) 地域よさや課題、自分たちとの関わりについて考えるとともに、</p> <p>(3) 地域のためにできることを考え、参画していこうとする態度を育てる。</p>		
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"><b>単元の評価規準</b></p>	<p><b>ア 知識・技能</b></p>	<p><b>イ 思考・判断・表現</b></p>	<p><b>ウ 主体的に学習に取り組む態度</b></p>
	<p>①地域のまちづくりのための様々な取組とそれに携わる人々の思いがあることを理解している。</p> <p>②地域のよさや人々の思いをつかむために、目的に応じて情報を収集したりしている。</p> <p>③自分たちの関わりが地域の活性化につながることを理解し、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。</p>	<p>①地域のまちづくりについて、資源を生かした取組や、携わる人々の思いから地域のよさや課題を明らかにしている。</p> <p>②地域の現状を捉えるために必要な情報について、手段を選択し多様な方法で収集している。</p> <p>③課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら解決に向けて考えている。</p> <p>④地域の活性化につながる取組について、調査結果や企画内容を、グラフや図、写真等を使って効果的に表現している。</p>	<p>①課題解決に向けた自己の取組を振り返ることを通して、自分の意で探究的な活動に取り組もうとしている。</p> <p>②地域のまちづくりについて調べる活動体験を通して、他者の考えを生かしながら、協働して問題解決に取り組もうとしている。</p> <p>③地域の活性化のために自分たちにできることを提案し、積極的に社会に参画しようとしている。</p>
<p><b>単元のゴール・期待される生徒の姿</b></p>			
<p>地域の特徴やまちづくりに携わる人々の思いに気付き、地域よさや課題、自分たちとの関わりについて考えるとともに、持続可能な町であるために自分自身もまちづくりを担う一員であるという自覚を持って、社会に参画していこうとする生徒。</p>			
<p><b>単元について</b></p>			
<p><b>(1)教材観</b></p>	<p>本単元では、「南風原町が住み続けられる町であるために必要なことは何か？」という問いを設定し、南風原町の現状、課題からまちづくりの視点を通して、生徒自ら持続可能なまちづくりに参画していくことをゴールとしている。南風原町は「福祉のまち」「かすりの里」「平和のまち」といった特色あふれる地域である。かぼちゃやへちまといった農産物を特産品とする農業も盛んであり、昔から印刷業を中心とした産業で発展してきた町でもある。また、県内で唯一海に面していない場</p>		

	<p>所にあり、災害時の避難場所として近隣市町村から防災対策が注目されている。このようなイメージを持つ地域でありながら、街づくりの視点から実際の数値を見ると課題が多い。今後も住み続けられる町であるために必要なことを生徒自ら考え、参画していこうとする意欲を高めることができるテーマ・教材となっている。町役場の関係部署と連携することで、地域からの期待も大きい。そのため生徒自身が社会の形成者であるという自覚を高めることができる教材である。</p>
<p><b>(2) 生徒観</b></p>	<p>本学年生徒は、小学校において「地域学習」で南風原町について特産品や戦跡について調べる学習を行ってきた。かぼちゃやへちま、ストレリチアが特産品であることや、第二次世界大戦中、陸軍病院として使用された壕の見学、かすり織り体験などから、南風原町に関する基本的な知識は持っている。しかし、「福祉のまち」としての実態、印刷業などを中心とする産業、移民や防災に関する項目についてはあまり詳しく学習する機会がなかった。さらに生徒の関心も薄い傾向にある。また、字ごとに「綱引き」や「獅子舞」、「棒術」などの伝統芸能について継承されているものもあるが、コロナ禍において、行事が激減し、継承者不足の課題が大きな課題となっている。このような中であって、生徒が地域に目を向け、いつまでも住み続けられる町であるために自ら社会に参画していこうとする意識は重要であり、地域からの期待も厚い。今回、南風原町役場の企画財政課と連携し、南風原町のまちづくりに、生徒の意見を取り入れる機会を得ることができた。これまで、調べたことをまとめ、発表するという形骸化してきた総合学習を見直し、探求的に課題解決に向かう生徒の活動を期待できるものである。</p>
<p><b>(3) 指導観</b></p>	<p>本単元の指導に当たっては、まず「統計南風原」「南風原町ホームページ」「南風原町文化センター」などの資料を提示する。各テーマごとに現状を調べ、そこから見えてくる課題、課題解決のための手立てを協働的に考え、プレゼンテーションソフトを使って提案することをゴールとしている。「健康・福祉」のテーマでは、「福祉のまち」としての南風原町独自の取り組みを中心に調べることや、統計から現状を読み取ることで様々な課題が見えてくる。「防災」においては、県内で唯一海に面していない地域であることから、災害時の避難場所として、町民以外の避難場所の確保や、福祉施設の利用への対応、外国人向けの案内などの有無を調べる。「移民」については、実際に移民した日系3世の方とのインタビューを予定している。「戦争・平和」については、コロナ禍で壕の中を見学できない現状を踏まえ、新しい平和学習のプランを考える。「環境」のテーマでは、制服リサイクルや最終処分場見学などから、ゴミ問題について考える活動がある。「特産品」については、「津嘉山かぼちゃ」というブランド品で、内地に出荷されているかぼちゃを、地元で目にすることはほとんどない。「地産地消」「フードマイレージ」といった視点から特産品を見直す取り組みの実態を調べる。「産業」については、印刷業を盛んであることから、地元企業へのインタビューなど可能である。生徒には、まず、小学校からの知識から視野を広げ、様々な特色が南風原町にあることを知ることから始める。その後、グループとテーマを分けて、協働的に活動に取り組めるように工夫した。行政</p>

	<p>や地域の協力を得るために、学校応援隊はえぼるの協力・連携を得ながら、計画的に活動に取り組むことで、生徒の声を行政に届け、地域社会へ参画する意欲を高めることができる学習にしたい。生徒は、ただ調べたことをまとめて発表するのではなく、現状と課題を調べたうえで、自分たちにできることや必要なことを提案する。発表会では、実際に行政の方に見てもらおうことで、まちづくりに貢献していこうとする意欲を高め、積極的に社会に参画していこうとする実践意欲を高めることができる。</p>
--	--

#### (4) ESD との関連

<p>本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)</p>	<p><b>【公平性】</b> 今の地域や暮らしだけを考えるのではなく、これからも住み続けられる場所であるという意識を持つこと、ひいては地球のウェルビューイングについて考えて努力することが大切である。</p> <p><b>【連携性】</b> 学校・地域・家庭がそれぞれに良い活動を行っていたとしても、互いに連携しなければ、発展的なまちづくりはなしえないということ。</p> <p><b>【責任性】</b> 南風原町に住む私達自身の意識や行動の変革が求められているということ。</p>
<p>本学習を通して育てたい ESD の資質・能力</p>	<p><b>【批判的に考える力 (クリティカル・シンキング)】</b> 南風原町の持続可能性について問い、現状における課題を発見する。</p> <p><b>【多面的・総合的に考える力 (システムズ・シンキング)】</b> 地域・学校・家庭といった視点を踏まえ、持続可能性を高めるために必要なことを考える。</p> <p><b>【コミュニケーションを行う力】</b> 南風原町が持続可能なまちであるためにはどのようなことが必要かを、意見交流を通して自分なりに考えをもつことができる。</p> <p><b>【つながりを尊重する態度】</b> 南風原町が持つ「イメージ」だけを捉えて理解したという意識ではなく、南風原町を構成する一員であるという自覚を持ち、積極的に課題の解決や話し合いに参加することができる。</p>

<p>本学習で変容を促すESDの価値観</p>	<p><b>【世代内の公正】</b> 自分たちだけでなく、どの世代においても同じ時間を過ごす皆が安心して過ごせる まちであるために解決しなければならない課題がある。</p> <p><b>【人権・文化を尊重する】</b> 南風原町が昔から大切にしてきた伝統芸能や工芸・文化、沖縄戦の事実など、今後も大切に受け継いでいく必要がある。 災害時に、災害弱者も皆、安心して過ごせるように努めなくてはならない。</p>
<p>SDGs との関連</p>	<p>Goal.3 健康・福祉 Goal.10 不平等など解消 Goal.11 持続可能な都市・まちづくり Goal.16 平和・公正 Goal.17 実行手段</p>

## 2. 単元の指導計画（全28時間）

次	時	○主な学習活動	学習への支援（・）	評価 (△) 備考 (・)										
1	7	<p><b>【導入】</b> ○オリエンテーション ・学習の見通しを立てる。 ○個人新聞を作ろう！ ・情報収集、取捨選択の方法を知る。 ・南風原町について概要を知る。</p>	<p>・手引きを作成し、学習に見通しを持たせる。 ・ウェビングで、視野を広げてたり、ロイロノート のシンキングルーツを使って、情報収集の仕方を学ぶ。</p>	イ②										
2	3	<p><b>【課題の設定】</b> ○テーマごとに班を編制 ・各学級8～9つのテーマに分かれる</p>	<p>・担任が事前に班編制を行い、班ごとにテーマを決める。 ・個人新聞は、PDF化</p>	ウ①										
		<table border="1"> <tr> <td>①健康・福祉</td> <td>②環境</td> </tr> <tr> <td>③教育</td> <td>④防災</td> </tr> <tr> <td>⑤移民</td> <td>⑥戦争・平和</td> </tr> <tr> <td>⑦特産品</td> <td>⑧産業</td> </tr> <tr> <td>⑨伝統文化</td> <td>⑩その他</td> </tr> </table>	①健康・福祉	②環境	③教育	④防災	⑤移民	⑥戦争・平和	⑦特産品	⑧産業	⑨伝統文化	⑩その他		
①健康・福祉	②環境													
③教育	④防災													
⑤移民	⑥戦争・平和													
⑦特産品	⑧産業													
⑨伝統文化	⑩その他													

		<p>○各テーマごとに現状を調べる。</p> <p>○課題を挙げ、具体的に調べる計画を立てる。</p>	<p>し、</p> <p>ロイロノートで閲覧できる状態にし、調べ学習に活用する。</p> <p>・シンキングツールの活用</p>	
3	2	<p><b>【情報収集】</b></p> <p>○各班の調査内容に応じて、役場の関係部署の方にインタビューを行う。必要に応じて、フィールドワークや講話を行う。</p>	<p>・地域人材の活用</p>	<p>ア①②</p> <p>イ①②③</p> <p>ウ①</p>
	4	<p><b>【整理・分析】</b></p> <p>○調べてわかったことを整理し、現状、課題、手立てを考える。</p>	<p>・Google スライドの操作方法を技術・国語の授業で事前学習しておく。</p>	<p>イ③</p> <p>ウ②</p>
	4	<p><b>【まとめ・表現】</b></p> <p>○自分たちで考えた企画や提案をプレゼン(Google スライド)でまとめる。</p>		<p>ウ②</p>
4	8	<p><b>【発表・振り返り】</b></p> <p>○学級・学年発表会で報告する。</p> <p>○各班の発表、各学年の発表を聞く。</p> <p>○活動を振り返る。</p>	<p>・各班の発表を聞いて、視野を広げる。</p> <p>・振り返りの視点から、活動を振り返る。</p>	<p>ア③</p> <p>イ④</p> <p>ウ③</p>

### 3. 事後学習

各テーマから課題を見つけ、解決のための提案を行うことにより、実践意欲が高まっていることから、学校でできる具体的実践について目標を立てて、実行する機会を設ける。